

郷土史抄

故濟先生の遺影を偲ぶ

（瀧川家の史料探訪）
鮫川 漁史

既にして木梨、渡邊、藤原（正親）諸公は故郷に於て（す）の卒ある官軍が瀧川等にや、江戸より之に至る御尋役たりし泉藩の星野、浦越を放逐して、藩主に對し願遂を説き之に遵ふべきを促した、因つて兩士は同盟兵並に上野敗竄の徒等の監視を避け、間道を行って夜間辛うじて歸藩し、十七日、會談を起したが俗士等は徒らに小節に拘たはり遲疑逡巡して容易に決しなかつたが、松井、桑原、北郷瀧川の諸士は之に對抗して侃諤諍争して、殆んど主戦を排するに至つた利辨、是の日、早くも戦端は瀧川に開始されて北軍の敗けとなり、退いて瀧川に防禦することになり、事已に遅れて奈何ともすべからざるの重大にあつて、藩主忠紀は大藩の強要に北走し、遂に佐幕の體に傾いた藩士の大半も亦之に隨ひ去つた。嗚呼後に止まれる士は松井、桑原北郷、瀧川以下數人のみで、館の危きこと想像に餘りあるではないか。

斯る折、關東敗走の兵等は藩主不在の際に迫つて軍資を要求し、貯財なければ領内の民から之を徴發せんとした。此の時、居残る松井以下の勤王派は斷じて之に従はず、決死して之を斥け、大義を究うした。

十八日、官軍は瀧川に北兵を破り、進んで新田山の要所を衝き、一舉にして泉館を撃たんとした。社殿の存亡は旦

夕に通り、泉館の勤王派たりし者も、茲に至つて多くは志屈し、乃ち民皆負荷して越つ悲壯の場合に臨んで悲觀する能はずとて、血涙を流らして王師に抗せんとすることになつた。噫斯の時に於ける師順派の頭目松井兵馬は自藩の誤るのを恐れて、一死以て我が志を明かにするに如かずと二十日、館外鹿島社に潛りし階前を端座し從容として自刃した、享年四十三（是に用ひた短刀は今無し、磐城史料圖

油問屋 關内油店
支店 郡山市駅前通 電話長三二八
支店 茨城縣本郷町 電話長平海七三
油問出張所 平町四丁目 郵便局前

特約販賣
日本株式会社
石油
カンリン
カニ
カニ

清爽簡易な
サングラス
婦人用とお子さん用
特價品豊富陳列

ツルヤ
平四 電一四〇

高島屋洋服店
洋服は高島屋
注文並に既製品

しづかに	食事の出来
る	食
正	しい
正	しい
正	しい
正	しい

スペインG・H・N 元詰
ゴルフポートワイン
甘味葡萄酒 1・10
御婦人の方には少し水を加へて召し上ると風味一そう佳良です

（平2）西村屋薬舗（電3）

債券 公債 両替 金融
多田井質店
平町大工町 電話五九二

秋物 入荷 澤山

農村の更生振興に
天然加里肥
最も適する作物！
蔬菜 馬鈴薯 里芋 しやうが 類
◎茄果類ではトマト 茄子の如き比較的病害に強い作物に施用すれば抵抗力を興へ落果を防ぎます
天然加里肥は酸性でないから如何に施用しても土壌を悪變する虞は絶然にありません

一俵 廿五錢
製造販賣 金城國雅
平町御田 電話六八八

貨物自動車、の御用命に
應じます

耳鼻咽喉科専門
鈴木正男
平町御田（電話五八番）藤田女学校前
入院應需 鈴木醫院

百萬の富より健康
此新療法で病弱を御試しなさい
「治療代」は當分一回三十錢として居ります。家庭の事情により御引も施療も致します
嘘か實か百聞一見御試し下さい

治療所 日中は 城山藥園（電話一〇九）
日没後は 二丁目自宅（電話四七〇）

治療士 飯田近治

表代城磐
酒銘
美味経濟
ヤマザキ醤油
山崎合名会社
電話十番

（磐城共濟病院）福島縣平町電六四一

内科	院長 藤山 尚輔
小兒科	部長 石山 藤
産婦人科	部長 藤山 尚輔
外科	部長 藤山 尚輔
皮膚泌尿科	部長 藤山 尚輔
花柳科	部長 藤山 尚輔
眼科	部長 藤山 尚輔
耳鼻喉科	部長 藤山 尚輔
齒科	部長 藤山 尚輔
物理療法科	部長 藤山 尚輔
事務局長	鈴木 孝雄

（毎日午前八時より午後十時迄診察）
病室完備 入院隨意